

ひょうごの遺跡

平成18年
7月18日発行

60号

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-5 TEL 078(531)7011 FAX 078(531)7014

ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

「モノ」と 「ココロ」の 考古学

兵庫県出土の祭祀遺物特集



馬場17号墳出土の子持勾玉(右、朝来市教委所蔵)
県指定文化財南あわじ市雨流遺跡出土の子持勾玉(左)

土器や石器などの「モノ(遺物)」を資料として、
私たちの祖先の暮らしや社会を復元・研究する考
古学の中に、「祭祀考古学」という分野があります。
原始・古代人の信仰や「ココロ」を解明するため



五色塚古墳出土の子持勾玉(神戸市教委所蔵)

のものです。すなわち、祭祀遺跡(カミ祭りの場
所を考古学から立証できる跡)と祭祀遺物(カミ
祭りに使用した道具)を研究資料に、原始・古代
の人々がカミや霊魂と接していた時の精神状態(心
理)を認知しようとする学問なのです。

「こころ豊かな人づくり」をめざす兵庫県の取
り組みに、ふさわしいテーマと考えます。

本号では、県下に存在する約350箇所の祭祀遺
跡(摂津94、播磨148、但馬63、丹波20、淡
路23)から古墳時代を中心に代表的な各種模造
品(石・土・金属・木を利用して実用品を象った
もの)を紹介します。原始・古代人の心の世界を、
お楽しみください。

写真は、考古学上のスフィンクス(謎)とされる
子持勾玉です。さて、何を模した形に見えますか
(左二つは5世紀代のもの、右二つは6世紀代の
もの)。



石製祭祀遺物



縄文時代の石棒、弥生時代には銅剣や銅戈を模した石製品が出土します。県内では丹波市梶遺跡や県指定文化財豊岡市見蔵岡遺跡の石棒、そして丹波市野村遺跡と神戸市垂水出土の石剣、神戸市青谷遺跡の石戈などがあります。

古墳時代になると、滑石製の有孔円板・剣形品・勾玉・管玉・臼玉などがカミ祭りに使用されます。いわゆる、三種の神器とされる鏡・剣・玉を模したもの（石製模造品）で、臼玉はガラス玉を模したと考えられます。また、古墳の副葬品にも鏡・石釧・車輪石や短甲、斧形・刀子形・鎌形に紡錘車などの石製品があり、子持勾玉もこれに含まれるのです。

年代的には、まず古墳の副葬品として使用が始まり、遅れて祭祀遺跡に用いたようです。

県下では5世紀代を中心に姫路市長越遺跡、神戸市新方遺跡、同松野遺跡、同郡家遺跡、尼崎市若王寺遺跡、南あわじ市雨流遺跡など地域の拠点となる集落遺跡など104遺跡から出土しています。石製模造品は単独（単体）で用いられることはなく、異種を組み合わせ使用します。マツリの対象となるものは自然神（山・川・巨石など）が多く、この前面に小石を利用して祭壇を組み、榊を立てます。そして、枝にこれらを吊り下げ、祭りを行ったようです。また、初期須恵器と呼ばれる土器と一緒に出土することが、多々あります。須恵器も最初の頃は貴重品で、祭祀具として使用されたのです。

最近、注目されたものに姫路市東前畑遺跡の最古級の剣形品や、南あわじ市木戸原遺跡からまとまって出土した有孔円板・剣形品・勾玉・管玉・臼玉などがあります。なお、長越遺跡の石製模造品は国内でも最古級の4世紀後半の年代で、これら初期のものはヤマト王権が勢力を拡大するのに併せて、全国に波及させた王権の祭祀具（三輪山型）なのです。



新方遺跡出土の各種石製模造品（神戸市教委所蔵）



東前畑遺跡出土剣形品
（姫路市教委所蔵）



姫路市長越遺跡出土勾玉



同上 出土有孔円板



土製祭祀遺物



これには縄文時代の土偶（県指定文化財淡路市佃遺跡など）、弥生時代の銅鐸形（宍粟市田井遺跡など）・分銅形（太子町亀田遺跡、たつの市新宮宮内遺跡など）・鳥形（洲本市寺中遺跡など）・勾玉・剣形・陽物（丹波市七日市遺跡など）・手捏土器などがあります。その他、人と鹿や建物などを描いた絵画土器（たつの市養久山前地遺跡など）が見つかります。



行者塚古墳出土食物形と笊形土器（加古川市教委所蔵）

古墳時代に入ると、人形・動物形のほか、鏡・玉類・武器・武具・農工具・機織具・什器類・舟形などが出土します。これらを土製模造品と呼びます。古墳に使用される埴輪（人物・形象）やミニチュアの甕も含まれるでしょう。この中から、次の奈良・平安時代には土馬（県下では古墳時代のものを含めて52遺跡）が残るとともに、人面墨書土器が出現します。なお、石製模造品と同じく祭祀遺跡だけでなく、墳墓（葬送儀礼）にも使用されています。

兵庫県を代表するものは、加東市河高上ノ池遺跡（県指定文化財）と神戸市寒鳳遺跡の人形類と加古川市行者塚古墳と加西市クワンス塚古墳の食物形・笊形土器です。土馬では、赤穂市東有年沖田遺跡の出土品が裸馬ながら、馬の特徴を捉えた見事なものです。また、生産（製塩）遺跡の出土品として淡路市貴船神社遺跡の舟形、そして珍しいものに、相生市丸山窯跡から出土した鋤（鋤）先形があります。古墳時



河高上ノ池遺跡出土人形（県指定文化財、加東市教委所蔵）



同上鏡形

代後期以降は、土着の神を祭るのにカミの性格づけが始まり、カミが好むものを供えるようになります。このため、造形しやすい粘土を使用して、多種多様なものが製作されるようになったのでしょう。

なお、従来の説では石製模造品の後を受けて使用するものと言われていましたが、実際はこれより

も早く始まり、滑石製模造品と同じ5世紀代に盛行し、6～7世紀へ続くことも分かってきました。



丸山窯跡出土鋤（鋤）先形（有年考古館（左）、相生市教委所蔵（右））



東有年沖田遺跡出土土馬（赤穂市教委所蔵）



金属製祭祀遺物



この祭祀遺物は、弥生時代に始まる青銅器・鉄器の導入が契機となることは言うまでもありません。まず、銅鐸・銅剣・銅戈の青銅製品（この代表が神戸市桜ヶ丘遺跡出土品）です。一般には、カミが舞い降りる山や巨石を対象に行った農耕に関わるマツリと考えられます。近年では、各地域の境界に発見



南あわじ市慶野銅鐸
（国指定文化財、慶野組、洲本市淡路文化史料館保管）
同市古津呂銅剣

されることから、疫病・災害からムラを守ること（防災）を目的にしたマツリとも考えられています。次に、銅鐸を模した小銅鐸が挙げられます。県内では、三木市の高篠谷ノ郷遺跡出土品の1例のみです。

続いて、古墳時代には古墳の副葬品として納められた鏡類と武器や農具類、そしてミニチュア化された製品（金属製模造品）があります。朝来市茶すり山古墳や姫路市宮山古墳の副葬品には鎌・刀子・斧などのミニチュアを納めています。なお、先に記した石製模造品もこのミニチュア品と同様、実用品の金属器（鏡・農具など）を模したもののなのです。

また、明石市の藤江別所遺跡では井戸から車輪石とともに、小形仿製鏡が9面出土しています。東播磨地域の首長が関わった井泉祭祀でしょう。

典型的な祭祀遺跡では、南あわじ市木戸原遺跡例のように小形素文鏡や刀子形、そしてこれらミニチ



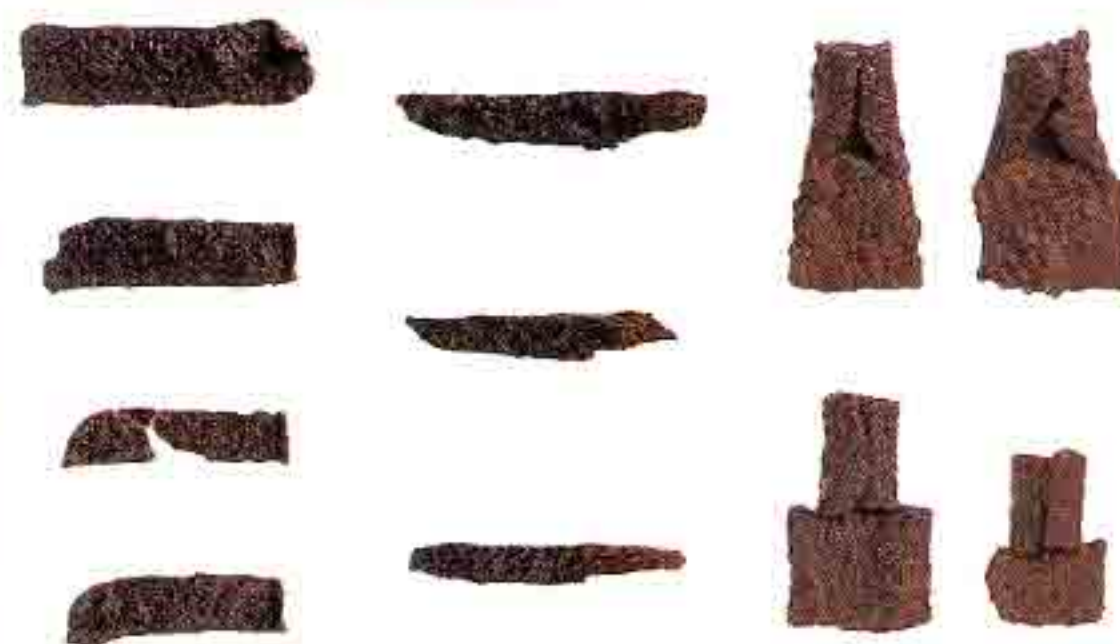
藤江別所遺跡出土小形仿製鏡（明石市立文化博物館所蔵）

ュア品の素材となる鉄鋌などが石製模造品と一緒に出土します。

さらに、奈良・平安時代になると鏡・鈴など（豊岡市袴狭遺跡から出土）があります。



木戸原遺跡出土小形素文鏡・刀子・鉄鋌
（南あわじ市教委所蔵）



茶すり山古墳出土ミニチュア鎌・刀子・斧



五色塚出土の子持勾玉は 古墳築造時期より新しい！

土しています。古墳の場合は、被葬者の副葬品であれば埋葬時の「鎮魂儀礼」、また墳丘や周濠の出土ならば築造時より新しいものが多く、奈良県桜井茶臼山古墳例のように「祖先祭祀」と考えられます。

明石国造となった海直が、五色塚古墳の被葬者を自分達の祖先として祭ったものでしょう。

表紙に載せた五色塚古墳出土の子持勾玉、実は勾玉本体の形態から古墳が造られた年代のものでなくて、約150年新しいことが分かりました。

では、誰が何のために、使用したのでしょうか。

子持勾玉は祭祀遺跡や集落遺跡、そして古墳から出



木製祭祀遺物



縄文時代のものはよく分かっていませんが、弥生時代には木偶・鳥形・魚形（姫路市長越遺跡など）・舟形、そして剣形・戈形（神戸市玉津田中遺跡など）があります。その他、関係品として琴が出土します。豊岡市袴狭遺跡出土の鮭やシュモクザメを描いた箱形木製品も、これに含まれるでしょう。マツリに使用した楽器の一種（琴板）と考えられます。

古墳時代では剣形・刀形・矢形（鏃、神戸市白水遺跡など）・舟形・鳥形・斎串（いぐし）などがあり、さらに木製埴輪（加西市亀山古墳の埴丘上の柱穴）も出現しています。

奈良・平安時代に入ると、都城で始まった木製模造品（人形・馬形・刀形・舟形・鳥形・斎串など）を使用した祭祀が国府や郡衙でも執り行われ、琴・琴柱・陽物など（丹波市七日市遺跡・市辺遺跡など）もあります。木製品が保存される条件の良い但馬地域には大変多く（現時点でも、全国で出土した人形

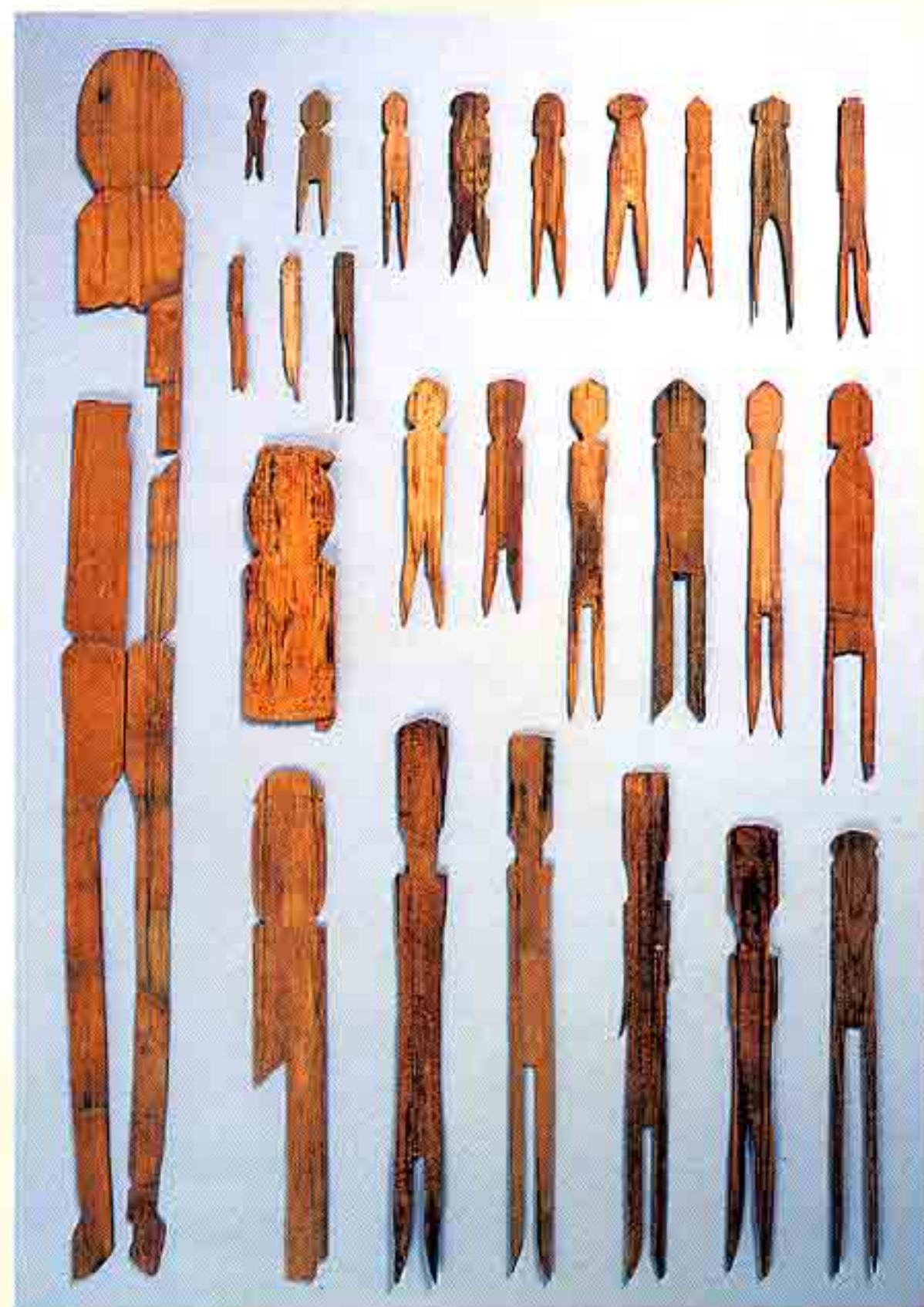
の約半数は但馬のもの）、豊岡市袴狭遺跡群を中心に同川岸遺跡、同深田遺跡、同国分寺跡、同瀬布ヶ森遺跡など県下51遺跡から出土しています。また、深田遺跡には絵馬も発見しています。

これらの祭祀具は、一年に二度6月と12月の晦日（みそか）に執り行う大祓（おおはらえ）（人形に息を吹きかけたり体を撫でたりして身に付いた穢れ（けが）をこれに移し、さらに水に流すことで他界に送り、身も心も清らかになる儀礼）に使用した人形だと言うことが明らかになりました。馬形や舟形・鳥形は、穢れを背負った人形の乗り物です。

袴狭遺跡の人形では、手の有無と首から肩への切り欠きの角度によって新旧を見分け、8世紀から10世紀にかけての編年案が作成できました。また、馬形は両側面に4本の脚を持つことも分かりました。



魚・鹿の絵を彫った袴狭遺跡出土箱形木製品（県指定文化財）



豊岡市袴狭遺跡出土の人形（最大のものは約150cm）



袴狭遺跡出土人形（上左）・馬形（下）・斎串（上右）



呪符木簡



古代末期から中世になると、陰陽師安倍清明に代表される呪いの世界が貴族から庶民へと広がってきます。天刑星信仰と北斗七星信仰もその一つです。

出土遺物では、道教の秘文である符録や呪句（急々如律令など）を書いた邪気払い手段の呪符木簡があり、赤穂市有年原田中遺跡など県下14遺跡で発見されています。神戸市玉津田中遺跡出土のものには、「□□□（符録）急々如律令」という文字がありました。

有年原田中遺跡例を参考にすると、最初の文字は咄天是と考えられます。咄天是は天帝が天是星に命ずるということ、符録の鬼の群列は病魔を表わし、急々如律令は速やかに正常に戻れということ。すなわち、天是星に病魔の侵入を止めるよう指示した札なのです。

似たものに、「蘇民将来札」があります。これは備後風土記などに記されたように（妻を求めて旅に出たスサノヲ（武塔）神が一宿一飯を請うたところ、富裕な弟（巨端将来）はこれを拒み、貧しい兄の蘇民将来が丁重にもてなしました。後に、スサノヲはこの兄と家族に蘇民将来子孫也と書かれた札を渡し、自分の撒き散らした疫病から救い、弟一家を滅ぼした）、

スサノヲ（午頭天の王）の撒き散らす疫病から逃れることが出来るというものです。この札は紙に替わり、現代にも受け継がれています。県下では、宝塚市安倉南遺跡・芦屋市六条遺跡など6遺跡から出土しています。



神戸市玉津田中遺跡出土呪符木簡（左）
芦屋市六条遺跡「蘇民将来公子孫宅也」木簡（右）



まとめ



縄文時代のマツリは、土偶と石棒がその代表です。弥生時代に伝わる金属・ガラス製品以外のものが、既に出揃っています。弥生時代は銅鐸などの青銅器が代表遺物で、それを真似た石製・木製・土製の祭祀具が生まれます。ムラ単位、さらにそれを越えた広い地域単位のマツリがあったと考えられ、こうした祭祀が地域統合の象徴になっていきました。

次の古墳時代では、ヤマト王権が全国統一のために作った祭祀具として石製模造品が出現します（祭政一致の世界）。また、土製模造品は石製模造品と同様に最初墳墓の祭祀に使用しましたが、後期以降土着のカミ（荒ぶる神）への供献品となり、病気を始めとする祟りなすものへの呪具（まじないの道具）に変化していきます。

奈良・平安時代には、木製祭祀具を使用する律令祭祀が流行りました。人形を用いて、天災・疫病などの原因とされる罪・穢れを他界へ流し去るのです。

原始・古代の兵庫県人も、穢れや悪霊そして疫神・鬼神の仕業が災い・病気を生む原因と考えて、これらを居住空間に入れないように努力（除災招福）してきた訳です。

さらに、縄文・弥生時代の人々は自然の中にカミを見つけ、自然と共生してきましたが、古墳時代が始まって首長自身がカミになるとともに、自然破壊も始まっています。忘れてならないのは、縄文・弥生人が実践した自然との共生、そして季節に合わせた恵みをもたらすカミへの感謝なのです。

第4回 ヘリテージマネージャー大会に参加しました!

ー 埋蔵文化財と建築のコラボレーション ー

兵庫県のヘリテージマネージャーが中心となり設立された「ひょうごヘリテージ機構(H²O)」の第4回大会が6月3日(土)、神戸山手大学と共催で、同大学3号館を会場に開催されました。

当日は、H²Oのメンバーだけでなく、天然記念物(樹木)分野の「みどりのヘリテージマネージャー」やチラシをご覧になった一般参加者も含め100名を超える人々で会場は賑わいました。発表会場では映画上映、記念講演会や鼎談、メンバーからの発表が行われ、3つの展示会場ではヘリテージマネージャーの活動がパネル等で展示されました。



発表会場



展示会場



淡陶タイルの展示

ひょうごヘリテージ機構(H²O)とは?

兵庫県ヘリテージマネージャー(建築分野)が中心となり2003年発足した「歴史文化遺産の発見・活用・保存」を目的とする開放型ネットワーク。ヘリテージマネージャーだけでなく誰でも参加できる。
(ホームページ) <http://www.hyogo-heritage.org/>

当事務所では、珉平焼窯跡(南あわじ市)の発掘調査で出土した「淡陶タイル」を展示し、調査を担当した深井明比古氏(兵庫県教育委員会 文化財室 審査指導係長)に解説をしていただきました。

明治~大正~昭和戦前期のタイルを前に、実物に触れることはもちろん、それらが土の中から出土したことに、建築の専門家達も興味をもたれたようです。

埋蔵文化財が、考古学という一分野だけでなく、身近な歴史を検証する資料となりえることを、建築のプロにも感じていただけたのではないのでしょうか。

今年も中学生を職場体験として 事務所に受け入れました! ートライやる・ウィークー

私たちの事務所にも、6月5日(月)から9日(金)までの5日間、神戸市立湊中学校2年の男子生徒二人が訪れ、遺跡から出土した土器の接合や銅銭の計量、展示室の模様替えなどの作業に汗を流しました。

なかでも、土器の接合作業は、細かい観察眼と根気のいる仕事です。まず、細かく割れた破片から、形、色、厚さ、文様などを細かく観察して、共通するものを選び出します。それから、接着できる箇所にチョークで印を付け、ある程度もとの形が復元できた段階で、最後に接着します。2日かかりで、なんとか椀と蓋の接合に成功しました。(写真)

二人とも、普段とは違う大人ばかりの環境の中で、少し緊張気味でしたが、日頃は、全く経験できない作業の連続に驚きと感動を覚えたようです。

このような活動を通じて、次代を担う若い人たちが、文化財に関心を持ち、理解を深めてくださることを願います。



接合した土器を持つ中学生

県立考古博物館(仮称) イベント情報

平成19年秋、いよいよ県立考古博物館(仮称)が播磨町に開館します。この博物館は県内の遺跡から出土した考古資料を素材に展示や体験学習を通して、楽しく遊びそして学びながら、私たちの祖先の知恵や経験を体感できる参加体験型の施設です。

開館に先立ち、県内の地域と連携し展覧会などさまざまな先行ソフト事業を展開しています。

考古博物館先行展

「朝来の古代と但馬の王墓」 入館料：無料

日 時：平成18年7月16日(日)・22日(土)～10月22日(日)
会 場：朝来市埋蔵文化財センター(朝来市山東町大月91番2)

関連のもよおし

「朝来の古代と但馬の王墓」講演会 参加無料・申込不要

日 時：平成18年8月27日(日) 14:00～15:30
会 場：さんとう緑風ホール(朝来市山東町楽音寺95番地)
講 師：榎本 誠一 氏(大手前大学教授・兵庫県文化財保護審議会委員)

公開講座 参加無料

第1回「朝来市内の古代遺跡について」

日 時：平成18年9月17日(日) 14:00～15:30
会 場：朝来市埋蔵文化財センター
講 師：田畑 基 氏(朝来市教育委員会)

第2回「茶すり山古墳とその周辺」

日 時：平成18年10月8日(日) 14:00～15:30
会 場：朝来市埋蔵文化財センター
講 師：岸本 一宏 氏(兵庫県教育委員会)



茶すり山古墳出土品

「夏休み古代体験展 あそびにおいでよ。」 入館料：無料

日 時：平成18年8月5日(土)～9月10日(日)
会 場：播磨町郷土資料館(加古郡播磨町大中)

関連のもよおし

「古代体験学習交流会 大中遺跡メッセⅣ」

古代体験フォーラムー古代体験学習の事例発表・意見交換会ー

日 時：8月22日(火) 参加無料・要申込

古代体験フェスティバルー古代ものづくり体験ー

日 時：8月23日(水) 参加無料・申込不要



問い合わせ・参加申込み先：兵庫県教育委員会 考古博物館開設準備室
TEL:078-362-3376 FAX:078-362-3343



正にコラムの刻印須恵器

本年度の加古川市坂元遺跡出土品整理事業で、平成14年度に行った確認調査の遺物中から刻印須恵器が見つかりました。当該遺物は扁平なつまみを持つ奈良時代須恵器

坏蓋の天井部、焼成前に押印されたものです。印影は陽出の「全」一字の周囲に、縦2.5cm×横2.0cmと縦2.0cm×横1.4cmの二重の長方形の陽出郭があります。

県内では、多紀郡衙推定地の篠山市東浜谷遺跡の「郡」と姫路市丁・柳ヶ瀬遺跡の「榎」の逆字、芦屋市芦屋廃寺の「寺」刻印須恵器鉢が知られる程度で非常に貴重な資料です。



編集後記

子持勾玉は、何の形に見えましたか？
鳥・魚など動物に見えた方は、古代人と楽しい会話が出来る優しいこちらの持ち主だと思います。

貴重な資料を提供していただいた相生市教育委員会、明石市教育委員会、赤穂市教育委員会、朝来市教育委員会、加古川市教育委員会、加東市教育委員会、神戸市教育委員会、洲本市教育委員会、姫路市教育委員会、南あわじ市教育委員会並びに慶野組、有年考古館にお礼を申し上げます。

次号は、秋風に任せ第4回埋蔵文化財収蔵庫展『井戸を掘る』特集をお届けする予定です。今後とも、よろしくご愛読ください。(S.O)



「ココロ豊かな美しい兵庫」をめざして